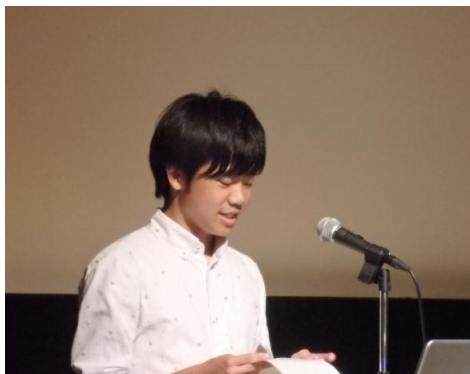
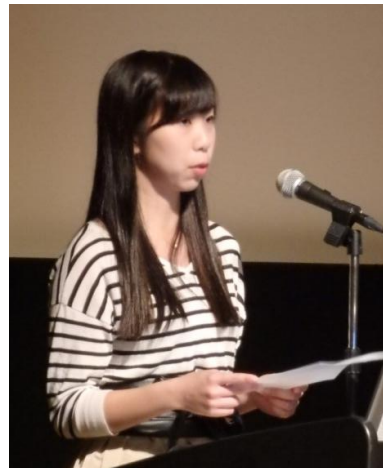


5月27日(土) 「第1回保護者進路講座」 特集号

【卒業生による講演会】抄録 卒業生のことばこそ 何ものにも代え難い 宝物

先日の「第1回保護者進路講座」では、3人の卒業生が保護者の方に向けて講演をしてくれました。2年生は、152名の保護者の方が出席され、熱心に耳を傾けてくださいました。

2年生の皆さんが、2年後、同じようにこの舞台に立ち、どのような話をして保護者や在校生、教職員を励ましてくれるのか、今から楽しみです。



●高松樹南さん (H28年度卒業 広島大学文学部人文学科)

- ・3年生11月に模試の成績が下がってしまった時、母がかけしてくれたひと言が涙を立ち直らせてくれた。それは、「センター本番でなくてよかったね」だった。
- ・模試の成績(結果)が全てではない。模試は、「できていないところ」をはっきりさせ、そのあとの学習の指標になるものだ。
- ・子どもがポジティブになるよう声をかけ、「心のサポート」をすることができるのは、いつも身近にいる「親にしかできないこと」だ。しっかり支えてあげてほしい。

●松川優奈さん (H28年度卒業 広島大学教育学部)

- ・3年間卓球部に所属していた。6月の引退までは学習中心の生活ができないことに焦りを感じ、体力的・精神的にも一番しんどい時だったが、今振り返ると一番充実していたと思える。最後までやり切ることで、「よし今度は受験勉強だ」と切り換えることができた。
- ・塾について…舟入高校は、土ゼミ、休日の教室開放、質問日など学習する環境が整っている。課題も多い。学校の出す課題を本気でやれば受験に勝つ力はきちんとつく。学校の課題、模試に加え、塾の課題や模試に追われ続ける友だちもいた。大切なのは、「塾にいっているという事実」ではなく、「どうやって自分が勉強をしていきたいのか」ということ。
- ・志望校決定には…大学に入って具体的に何がしたいのか、大学卒業後どうしたいのかを視野に入れること。一本ブレない目標があればモチベーションも上がる。
- ・舟入には学力の高い生徒が本当に多く集まる。入学して最初のテストで今まで見たこともないような点数や順位だった時、母親から「舟入高校はできる子が集まっている。そんな高いレベルの中でやっていけるのだから、こんなものよ。ここから頑張っていこう。」と言葉をかけられた。
- ・受験を終えて感じたことは、最後まで諦めないことが本当に大切だということ。受験に関していうと本当に最後まで何があるかわからない。ブレずに最後まで頑張りが続けた人が合格できるのではと思う。

●青木奨宏さん (H27年度卒業 広島大学医学部医学科)

- ・医学部医学科を目指したのは、2年生11月。担任に薦められる。決断した日、帰宅後、親に「医者になりたい」と告げた時、「頑張れ」と励ましてくれた。その日のことは忘れない。
- ・医学部受験を決意してから、必ず続けたことは…
 - ①「ダーゲット」を毎日必ず見る。10分以上時間をかけてやり、絶対に満点をとるようにしたこと。小さなことだが、英語の成績はグンと上がった。何をやっていいか、何から始めたらよいかという人はやってみてほしい。
 - ②授業にとにかく集中する。塾には一度も行かなかったが、課題をきっちりやった。課題を軽視する人がいるが、「きっちり」やることは結構大変なこと。
- ・浪人してからの予備校の学習では…同じ問題を8~12回やった。現役の時は2、3回がせいぜいだった。本番の二次試験の時、やったことのある問題ばかりが出た。
- ・3年生になって成績が伸び悩み判定もよくなかったが、親は成績について何も言わなかった。浪人の時、正直苦しいことは何度かあった。二浪の不安がよぎることもあったが、家族が、本当に励ましてくれ助けられた。
- ・親が、本当に行きたいところに挑戦させてくれ、浪人をさせてくれ、最後まで自分を信じてくれたことに感謝している。
- ・「本気になった生徒」と「親の後押し」は最強のタッグになるはず。

3人の卒業生は、急遽お願いした人もあり、事前の細かい原稿打合せなどはなかったようですが、皆、堂々とした話しぶりで、聴衆に大きな感動を与えてくれました、